

令和5年度 第2回 射水市行財政改革推進会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年8月4日（金） 午後3時30分～午後5時
 - 2 開催場所 射水市役所 会議室 201・202
 - 3 出席者
 - (1) 推進会議委員
中村会長、春山副会長、門田委員、町野委員、三浦委員、宮田委員、
田中委員、若林委員
 - (2) 当局
市長、副市長、教育長
事務局：企画管理部長、企画管理次長、未来創造課長、財政課長、
DX推進班長、未来創造課長補佐、未来創造課行革推進係長、未来創造課行革推進係員
 - 4 欠席者 黒崎委員
 - 5 傍聴者等 報道機関2者
-

会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事
 - (1) 第5次射水市行財政改革大綱（案）について
 - (2) 第5次射水市行財政改革集中改革プラン（案）について
- 4 閉 会

<会議資料>

- 資料1-1 第5次射水市行財政改革大綱（案）概要版
 - 資料1-2 第5次射水市行財政改革大綱（案）
 - 資料2-1 第5次射水市行財政改革集中改革プラン（案）概要版
 - 資料2-2 第5次射水市行財政改革集中改革プラン（案）
 - 資料2-3 第4次集中改革プランからの継続取組としなかった取組一覧
-

(1) 第5次射水市行財政改革大綱(案)について

- (委員) 概要版の「本市を取り巻く環境」に「人口減少・少子高齢化」と記載があり、大綱の10ページに「人口減少がもたらす課題は多岐にわたります」とある。概要版に「人口減少・少子高齢化がもたらす多岐にわたる課題」と付け足せばどうか。取り巻く環境を認識し、共有することが大事である。
- (会長) 団塊の世代が後期高齢者となり少子高齢化のフェーズが変わる。生産年齢人口が減少して税収が見込めない点は、人口構造の変化によるもので、増加傾向が見込まれる事務的経費も、高齢化に伴うものが大きいかと思う。合併優遇措置の終了による普通交付税の減少も、合併の背景に人口減少があるかと思う。フェーズが違ってくるということは注意しておくとうい。

(2) 第5次射水市行財政改革集中改革プラン(案)について

- (委員) 48番「介護認定審査会資料のペーパーレス化」について、合理化できることからすぐ取り掛かるべきである。
DXの推進については、どの課、どの組織がマネジメントしているのか。富山県立大学との連携も重要である。
- (事務局) 未来創造課にDX推進班を設けている。令和3年8月に「射水市DXビジョン」を策定し、組織横断的に関係課で構成するワーキンググループを立ち上げ、様々な検討を進めている。
県立大学では、「DX教育研究センター」が設立されており、その教授や学生も交えて、ワーキンググループに参加いただいている。
- (会長) 県立大学との連携は重要であるのでぜひ進めてもらいたい。DXやデータサイエンスにおいて重要なのは、生のデータに触れることである。連携することで互いに良い成果が期待できる。
- (委員) 50番「職員の資質の向上」について。「資質」は、生まれ持ったものという印象がある。表現を変えてはどうか。
55番「職員給与の適正化」について。「適正化」は現在適正ではないと捉えられかねない。表現を変えてはどうか。
- (会長) スキルや使命感も含めて「資質」と表現しているように感じる。誤解を招く表現であれば、表現を検討いただきたい。
「適正な職員数の管理」や「職員給与の適正化」については、環境の変化の中で常に適正な数字を維持していく意味でこういった言葉を使っているかと思う。誤解がない言葉が考えられるのであれば、検討いただきたい。

- (委員) 10番「コミュニティ・スクールの推進」について。「地域学校協働活動推進員」は現状3人で令和9年度の目標が9人とある。活動推進員の3人で21校をコーディネートするのか。
- (事務局) 3人は、現在、生涯学習・スポーツ課に所属する「放課後子ども教室コーディネーター」である。今後、コミュニティ・スクールを推進していくにあたり、各中学校区に1名ずつ地域学校協働活動推進員を配置する予定としている。
- (委員) 53番「組織体制の充実・強化」について。総合計画ではライフスタイルを柱にしており、組織間連携がますます重要になる。文言を追加してはどうか。
また、「女性活躍」がテーマの取組はあるか。打ち出すことはできないか。
- (会長) コミュニティ・スクールの推進体制は、9番「中学校の休日部活動の地域移行の推進」もそうだが、柔軟に対応する必要がある。
女性活躍について、事務局から説明をお願いします。
- (事務局) 3番「まちづくりの担い手となる人材の発掘・育成」の取組の中で、第5次集中改革プランにて、「射水市まちづくりプラットフォーム」、「射水まちづくりセミナー」に加えて、「女性活躍推進セミナー」を実施することを追加している。
- (会長) 市民全体における女性活躍だけでなく、市内での女性活躍もあると思う。
- (委員) 基本方針1 取組項目②「公民連携におけるサービスの維持・向上」について、国では、中小規模自治体の公民連携手法の多様化の推進を6月に発表した。民間提案制度や公募型サウンディングなど、公民連携手法を深化・多様化させ、市民サービスの向上や財政負担の軽減を図っていくという意識が必要である。
- (会長) 県内でも先進的に取り組んでいると感じる。様々な手法があるので、これまでのスタイルや個性を深めてもらいたい。
- (委員) 28番「DXの推進による効率的な防災体制の強化」について。これまでの災害ボランティアの経験から、被災者側から場所や人数を含めたボランティアの要請ができるシステムなど、デジタル技術を活用するなどし、必要な場所に必要な人数のボランティアを最適に配置できる仕組みがあればよい。
- (会長) 防災や災害復旧におけるDXの役割は大きい。計画を立てて、どういった対応ができるか予め考えておく必要がある。通信基盤が機能しなくなった時にどう対応するかも含め、効率的な防災体制の強化を進めてもらいたい。
- (委員) 8番「創業支援の推進」について。あるべき姿の通り、商工団体等との連携をさらに深めてもらいたい。
- (会長) 中小企業におけるDXは非常に重要だが、DXは次々と新しいものが出てくるため、柔軟に対応いただきたい。

(委員) 43番「使用料・手数料の見直し」について。現状把握の矢印が理解しづらい。

3番「まちづくりの担い手となる人材の発掘・育成」と4番「NPOとの協働によるまちづくりの推進」について。総合計画前期実施計画には「まちづくりラボの設置」があるが、集中改革プランには掲載されていない。また、数値目標の、まちづくり講座の年間受講者数は適切か。

(会長) 取組スケジュールは、5年間現状把握を続けるならひとまとめするか、ニュアンスが異なる場合は書き方を変えるのが良い。

また、取組スケジュールに実施と書いてあるが、PDCAサイクルを含めた実施と理解している。

プラン全体の数値目標について、インプットの指標は、「射水市としてこれを行います。」という指標であり、アウトプットの指標は、「何人参加していただく。」という指標である。理想的なのは、アウトカムの指標だが、今回から「あるべき姿」を掲げているため、具現化するためのスケジュールを考えて取り組んでもらいたい。データサイエンスやDXを活用して、人々の行動や考えを可視化することも重要である。

プラン全体を通して、DXをベースとした取組を含む幅広い取組があり、行財政改革の視点で取り組んでもらいたい。とりわけ、ハード面とソフト面の連携が重要であり、公共施設の適正化といったハード面はもちろん、文化・芸術を支えていくというソフト面もあるため、バランスをとって質を維持しながらチャレンジされる集中改革プランのように感じた。

(委員) 資料2-3「継続取組としなかった取組一覧」中の「地域ふれあいサロン事業の見直し」について、制度を改善したのは良いが、ふれあいサロンに取り組む地域の状況や実態を今後も把握し、指導してもらいたい。他の第4次から引き継がなかった取組についても、実態を把握し指導していく体制を維持してほしい。

(会長) 事務局においてこの資料を用意したのもそういった意図があると感じる。集中改革プランには無い取組においても、日常の業務として継続してPDCAサイクルを回していくことを意識してもらいたい。